

■中野半左衛門(景郷)
なかのはんざえもん
いざノ来航・1804＝

幕末長州の三大豪商。諸河川を開削して通船事業を支配，初期薩長交易を主導し，志士を強く支援。

長門国豊浦郡殿敷村で，「藤原秀郷の末裔で代々大庄屋の酒造業営む中野家7代目の子に生まれる。祖父景德は学者でもあった。

浮世床・・・1813＝9歳：父が死去したため，以後，「祖父の薫陶を受け，学者文人の往来する環境なか，殖産興業の大志を抱き，頭脳明晰かつ精力的な活動家に育って行く。

水野忠成老中1818＝14歳：

英船浦賀来航1822＝18歳：「殖産興業のため，木屋川の通船事業を志し，

富籤流行・・・1830＝26歳：祖父が死去。殿敷村庄屋の小都合役を命じられ，
富嶽三十六景1831＝27歳：「木屋川通船工事を願い出るも，藩の権利関係の困難なことを知って，とりあえず待機，

高島砲術・・・1834＝30歳：故あって大坂に出て営業，藤屋用四郎と改名。

大塩平八郎乱1837＝33歳：

蛭社の獄・・・1839＝35歳：大坂を閉店し，一家で帰郷。酒造業は嫡子に任せ，「木屋川通船事業の調査研究を開始し，
勸進帳初演・1840＝36歳：
天保改革始・1841＝37歳：「いよいよ豊浦川開削を構想，

順天堂始・・・1843＝39歳：この前後，矢戸真徴が編纂する「風土記」を手伝い，以後，親交。

阿部正弘首座1845＝41歳：捕鯨のための組合結成にも尽力。
孝明天皇・・・1846＝42歳：「大庄屋となる。久留米から来訪した修行者を開祖に，代々信者の真宗の寺の創建を発起，
・・・1847＝43歳：構想も具体化するなか，

北斎没・・・1849＝45歳：
国定忠治磔・1850＝46歳：「京都から御本尊を迎えて，西念寺を建立。
尊徳報徳論・1851＝47歳：開削事業許可申請の活動を始め，

ペリー来航・1853＝49歳：「三藩揃っての許可が出て，ついに開削工事に着手，
開国開港・・・1854＝50歳：*完成し，通船事業の念願達成。全て自費で行ったことから，料金徴収も認められ，

松下村塾・・・1856＝52歳：「船着場に蔵も建設。萩藩から勸農産物御内用掛を任命され，3つの浦の捕鯨組合のそれぞれの長と全体の惣都合(総支配人)にもなる。

五ヶ国条約・1858＝54歳：藩命で，*薩摩から産物取組のため下関に来訪した役人に応対，薩長交易の契約を結び，下関の新地産物会所を引受けるなどして多忙になり，大庄屋を辞任するも，以後待遇変わらず。

安政の大獄・1859＝55歳：「佐波川の通船工事に着手し完成，以後も，次々と事業を展開して，地方物資の交流に尽力。

桜田門外変・1860＝56歳：鯨漁が行詰まりかけると，薩摩との交易産品拡大すべく，藩命で，鹿児島に出張。

生麦事件・・・1862＝58歳：大庭学僊が絵巻物「豊浦河通船図」描き，矢戸真徴が和歌を添えて，祝ってくれる。「肥前国とも交易開始。

8月18日政変 1863＝59歳：*新地御米入札頭取役，穀物会所頭取役に任命される。これらと並行して，自らの財力と強い意志をもって，勤王の志士を援護しており，朝廷政変で落ちた公卿中山忠光も中野家に立寄り，
薩摩藩士密航1865＝61歳：「勤王の志士の中野家への出入りが一気に激しくなり，

大政奉還・・・1867＝63歳：
明治維新・・・1868＝64歳：*維新実現に至り，

初の日刊新聞1870＝66歳：維新後，近畿山陽の志士を歴訪して，萩まで来た中山三屋女も長期に滞在するなどして，

明治6年政変 1873＝69歳：
佐賀の乱・・・1874＝70歳：「没した。